

〔議事録〕 概要

会議名	海釣機能専門分科会 平成31年度第1回（平成31年4月10日開催）		会場	芦屋町役場3階 課長会議室		
日時	平成31年4月10日（水） 10:00～11:20					
件名・議題	1 開会 2 議事 （1）釣り文化振興促進モデル港指定について （2）芦屋港海釣施設運営協議会について （3）その他					
委員の出欠	会長	吉田 博司	出	副会長	皆川 公一	出
	委員	西森 誠	出	委員	鶴原 修	出
	委員	郷原 未来	出	委員	河村 拓磨	出
合意・決定事項	○芦屋港海釣施設運営協議会の位置付け等資料のとおり承認。 ○組織体制は各委員の意見を踏まえ、事務局で再度検討。 ○芦屋港海釣施設運営協議会要綱の作成は会議内容のとおりとし、要綱は事務局に一任。 ○モデル港指定証授与式には事務局が参加し受領することで承認。					

海釣機能専門分科会 平成 31 年第 1 回（4 月 10 日開催） 議事録

1. 開会

2. 議事

(1) 釣り文化振興促進モデル港指定について

[事務局]

- 資料 1 に沿って事務局より説明
モデル港応募から指定における過程を資料 1 に沿って説明。

[会長]

- 海釣機能専門分科会での議論と平行して、国が港湾での釣り施設の利活用を進めていて、モデル港の指定についても条件が揃っていた。全国 13 港の指定の中に芦屋港が選ばれたことで、芦屋町だけの話ではなく、国がモデル港として認め支援を行うということ。また、地元関係者からなる協議会に芦屋町と港湾管理者である福岡県が入り、港湾での釣り施設を推進していくことになるということなので理解したということなので何かあればご意見頂きたい。
⇒ （異議なし。）

(2) 芦屋港海釣施設運営協議会について

[事務局]

- 資料 2 に沿って事務局より説明。

[会長]

- 芦屋港海釣施設運営協議会の設立や目的については皆さん理解頂いたと思う。何かあればご意見を頂きたい。

[委員]

- 設立される協議会は今までの海釣機能専門分科会と比べ自由度が高くなるというのはどのようなことなのか。
⇒ 今までは町の付属機関になる。委員の皆様も非常勤特別職という位置付けで、町長から諮問を受けた内容を審議する組織なので、それ以外の事を議論することや、その組織でイベントをするなどの活動は制限される。協議会は任意の組織なので、そのような行

動もできるようになるということで「自由度が高くなる」と表現した。ただし、資金がないため委員報酬がなくボランティアとなる。(事務局)

[会長]

○ 芦屋港海釣施設運営協議会の体制については、基本的に現委員ではじめは構成することになると思うが、組織構成や会長・副会長について、非常に重要なので皆様の積極的なご意見を頂きたい。

⇒ 今までの海釣機能専門分科会での議論で十分な所もある。新たな協議会がどのようなものなのかが見えれば、委員の構成についても意見がでると思う。(委員)

⇒ 今までの議論結果により、施設整備や漁協など関係者との調整は行政等で行っていくことになるが、その前段として利用者や関係者の皆様から、詳細なご意見を聞く場として考えている。また、管理運営方法をどうしたら良いのかなど、それぞれに聞くよりも、一同に介して話し合うことが効果的で、そのような場と考えている。そのため、観光協会や商工会も交え議論することで、より良いものになると考えている。(事務局)

⇒ 地元の協議会ということなので、会長は芦屋町の釣具店である皆川さんで、他が会長を補佐するという方が、釣りのマナーや道具関係など様々な面で良いのではないかと。また、釣りをしたことのない小学生の子を持つ親を委員に入れたら、釣りをしない人からの新たな意見があるのではないかと。(委員)

⇒ 漁協の組合員には、一般開放しなければ揉めないのにと考える人もいれば、しっかりした施設やルール作りがあれば良いと考える人もいる中で、釣り促進という立場ではない者が本協議会委員にならない方が良いのではないかと。(委員)

⇒ 商工会青年部というより商工会の職員の方が良いのではないかと。(委員)

⇒ 商工会は現時点では選考中の状態なので、商工会職員の方が良いのか、ファミリーフィッシング主催である青年部の方が良いのかは、商工会と今後協議していく中で決めたいと考えている。(事務局)

⇒ 他のモデル港の関係者が協議会メンバーにいと連携がはかれるので良いのではないかと。また、一般開放は望むが、調整がなされないまま開放すると失敗する可能性もあって、今後の展開も難しいと思うので、一般開放に向けては管理運営方法がしっかりとされた状態で進めた方が良いのではないかと。(委員)

⇒ 今後のことを考えると、遊漁船組合の方を入れておいた方が良いのではないかと。

⇒ 地元の関係者でまとまるのは非常に難しいかもしれないが、多くの関係者でまとめることが重要となる。日本釣振興会として、福岡県だけでなく九州内を支援する立場にあるので、基本的には地元の皆様で、『チーム芦屋』となってがんばってもらいたい。ただ、今まで芦屋港に携わってきたので、委員の皆様から残ってもらいたいとの話があれば委員として関わりたい。おそらく、(株)タカミヤさんも同様の立場ではないかと。日本釣振興会もボランティアで運営する団体で、国や自治体から補助金を受けている団体でもない。財源やイベントによる運営者の人手不足など課題もあるが、約50年間活動できているので、芦屋港海釣施設運営協議会も同じような組織になればと願っている。(会長)

⇒ 北九州市とは連携協約を結び、行政間では様々な分析で連携しているので、北九州港や下関港とは行政レベルでは連携できている。会長においても、お忙しい立場であるのは理解しているが、様々な知見と経験からもう数年は協議会への参画をお願いしたい。(事務局)

⇒ 皆様からの意見は出尽くしたと思うが、どうか。(会長)

⇒ 皆様の意見を元に、事務局として関係団体と調整をはかりながら委員体制を決めていきたいし、第1回の会議で会長・副会長を決めたいと考える。(事務局)

(3) その他について

[事務局]

○ 4月17日に開催されるモデル港指定証授与式に現在、事務局で参加しようと考えているが良いか。

⇒ 事務局に行ってもらおうということで、他は事務局で個別に協議を。(会長)

○ 芦屋港活性化基本計画とその概要版について、製本がまもなく完成するので、完成次第、送付する予定。

[会長]

○ 何かあればご意見を頂きたい。

⇒ 4月27日のイベントはどのような内容で、規模なのか。(会長)

- ⇒ 芦屋町観光協会が実施している芦屋町体験プログラムの1つのメニューとして、商工会青年部が独自に実施するもの。ファミリーフィッシングの縮小版と考えてもらえたら良い。1日60組が50分釣り放題を4回実施予定。(事務局)
- ⇒ 日本釣振興会が推奨する温度は15℃以下で、昨年別府が湧き水ではあるものの、12℃で釣れなかったのは3名程度だったので、水温を教えてほしい。(会長)
- ⇒ 芦屋港だけでなく、他にも芦屋町には釣り場があると思うが、そこも整備されていくのか。(委員)
- ⇒ 釣り場になるには安全対策における施設整備等が必要になる。まずは、芦屋港の整備を基本計画に沿って進めていくことになる。(事務局)

以上